

## 令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
国語	文章表現を推敲・精練していく力。発言の意図をくみ取る力。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     本校における全国学力・学習状況調査                      平均正答率 53%                      (東京都 57, 全国 54.3)                 </div> 全国学力・学習状況調査の結果を見ると、本校生徒は東京都や全国と正答数の中央値は同じであった。しかし、平均正答率はそれぞれ下回っている。分布図を見ると平均正答率に近い得点をした生徒が少なく、平均やや下に生徒の分布が固まっている。また、最上位層(満点)はいるもののそれに次ぐ得点帯がない。これは定期考査等でも同様の傾向が見られる。B群・C群の生徒の思考力や応用力を引き上げ、学習集団全体のモチベーションを喚起する必要がある。	授業課題等に取り組む際に課題のヒントをレベルに応じて用意することで、各生徒が自分の習熟状況によって一段階上のレベルを目指すように仕向ける。また、習熟度を合わせたグループワーク、あるいは意図的に習熟度が異なるメンバーでのグループワークを取り入れ、各段階の生徒それぞれの学習レベルを向上させる。その中で、お互いの文章や作品を読み合い相互に評価・助言したり、他者からの評価・助言をもとに自らの表現をより向上させていくような取り組みをしたりする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
社会	活用できる「知識・技能」の力の向上、課題等に積極的に取り組み、深く考えそれを正確に表現する力を向上させる。自己の活動を振り返り、次につなげる「主体的な学び」の実現を図る。	定期テストの点数が高い生徒と低い生徒の二極化が顕著な課題である。また、重要な語句や基礎事項を正しく覚えていない傾向がある。3分野を総合的に見ると、全体的に地理を苦手とする生徒が多い。さらに、資料を正しく読み取ることが苦手で、論述問題は、社会的な事象から課題を把握し、多面的・多角的に考察する力をより一層身につけることが喫緊の課題である。	興味・関心をより高めるために、導入の工夫や視聴覚教材を活用していく。また、ワークシートを活用した学習や課題別学習、探求学習に定期的に取り組む。そのために、年間計画に基づく単元学習計画の見通しを深めていく。さらに、教科指導の工夫や基礎事項の定着を行い、分かりやすい授業を展開していく。今後も、3分野から総合的に考察する能力の育成のため担当教員間での連携を密にし、指導にあたっていく。教科指導を通して、豊かな世界観を培わせる生徒の育成を図る。

学数	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫

## 令和7年度 授業改善推進プラン

<p>基礎・基本である「知識・技能」の定着を図る。その上で、実生活に生かすことのできる「思考力・判断力・表現力」の育成を目指す。そのために、自ら課題を粘り強く取り組むための「主体的に学習する態度」を育てる。</p>	<p style="text-align: center;">本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 50.0%</p> <p>評価の観点における「思考・判断・表現」の問題の正答率は東京都の平均値よりも低い。このことから、応用的な問題に対する正答率が低いことが分かる。授業において、生徒同士が対話的な活動を通して他の意見を取り入れ、深い学びにつなげていく必要がある。</p>	<p>実生活に関連した課題解決学習や興味をもてる教材づくりに努め、「主体的に学習する態度」「思考力・判断力・表現力」を育てる。また、教科部会を2週間に1度程度行い、教員間で進捗状況を確認し、一人一人の生徒の学習状況や特別な支援を要する場合の配慮などを確認し、意見交換を行っている。お互いに良い教材があれば共有しながら授業展開をしている。</p>
---	---	--

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<p>身近な生活と科学的な事象との関連性を通し、学んだことを生かし主体的に生活していく能力を育む。さらに、それぞれの事象から生まれる科学的な探求心を大切に、探求の過程を説明できるよう、基礎事項の定着、「思考力・判断力・表現力」の育成をめざす。</p>	<p>全国学力・学習状況調査では、本校の平均正答率は 2.7 / 6 (45%)であった。知識・技能の習得は全体的に平均を上回っている。しかし、科学的な探求から生じた新たな疑問を探求する過程を考えたり、まとめたりする力が定着していない。実験・観察の目的が何かよく考え、適切な語句を用い、丁寧に学習を振り返る力が必要である。</p>	<p>主体的・対話的な学びの場としての、実験・観察など体験的な活動の機会を多くつくる。目的に基づき、その結果に関して順を追って丁寧に考察させる。身の回りの科学的な事象と関連付ける授業展開を意識し、新たな疑問の探求へとつなげる。ICT機器を有効に活用し、情報を他と共有させ、新たな疑問の探求へとつなげると共に、今後のより良い生活を考えさせる。</p>

## 令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
音楽	「知識・技能」の確実な習得とともに、「思考力・判断力・表現力」の育成を様々な体験活動を通して目指し、「主体的に取り組む態度」を育てる。	技能の確実な習得にまで至っていない生徒もいる。少しずつ自信をもたせながら、知識とともに技能も確実に習得させていきたい。また、音楽を構造的にとらえ鑑賞したり、自ら工夫して表現したりする能力も今後一層育てていく必要がある。	各分野を関連させながら音楽の諸要素の理解を深め、構造的に音楽をとらえ表現・鑑賞できるよう、生徒の資質・能力の育成を目指す。また、合唱コンクールなどの行事と連携しながら、発表する場をもち、技能の向上を目指す。生の演奏を聴く機会を設定し、多様な音楽に触れる機会をもつなどして、音楽への興味関心を高めていく。また、活動内容に合わせてタブレットを活用する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
美術	各課題をもとに「知識技能」を確実に習得し、探究的な制作活動を通して「思考力・判断力・表現力」を身につけ、感性豊かな生活を創造していく姿勢を育む。	作品制作への取組については、積極的に探究を深める生徒が多いが、知識の習得や技能の活用に結びついていない生徒も見受けられる。また、探求の過程の言語化や、多角的に振り返ることが不十分な場合もある。成果を実感できるよう、基本的な知識・技能を確実に習得させ、探求心を高めることで創造工夫する能力を育むことが必要である。	各課題でアイデアスケッチと探求計画、中間発表、コメントや振り返りを設け、作品についてより深く考察させる。また、わかりやすい具体例を各段階で提示し、各項目の基本的な知識、用語、制作方法を探求と関連付けて確認する。タブレット等を活用し、多様な探求活動や文化的な建築物等を鑑賞する機会を増やすことで、美術文化と生活とのかかわりについて考察し、自らの探求に生かそうとする姿勢を育む。

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
保健体育	「知識・技能」では各種の運動の特性に応じた技能及び個人生活における健康・安全について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。「思考力・判断力・表現力」では、運動や健康について自他の課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。「主体的に学習に取り組む態度」では、生涯にわたって運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。	実技の授業に積極的に取り組む生徒が多く、自分が定めた目標の達成に向けて意欲的に取り組んでいる。しかし、定期テストでは、授業で学習した知識の定着に課題がある生徒が多くいた。そのため、授業ではより知識と技能を関連付けて指導を行う。また、新体力テストでは、運動経験の二極化がみられた。全国平均を上回る種目も複数あった一方で、握力や50m走、ボール投げが低い結果となった。	運動の導入部分を工夫し、基礎となる動きを取り入れながら、段階的に技や目標の動きの習得を目指す。ICTを効果的に使い、具体的なイメージを持たすことや、自己の動きを客観的に捉えることができるようにする。また、グループ活動で互いに言葉を掛け合う中で考える時間をつくり、協働的な学習を取り入れる。特に、体づくり運動の単元において、新体力テストの結果を踏まえて、自己に適した運動の計画を立案する。そして、生涯にわたって運動に親しみ豊かなスポーツライフを実現できるようにする。

術技	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫

## 令和7年度 授業改善推進プラン

	<p>ものづくり活動を通して知識・技能を高めつつ、学習内容を日常生活に活用できる思考力等の育成を目指す。また、情報技術の活用力とともに、情報リテラシーの伸長を目指す。</p>	<p>定期考査において、全学年を通して「知識・技能」の得点率が高い。一方、ものづくり活動における作業の説明や、その作業が必要な理由を問う問題では、記述ができない生徒が多い。探求の過程や、ものづくりの意図について自律的に説明できるように思考を促しながら授業を行う必要がある。</p>	<p>思考力を伸ばすために、生徒同士で意見共有したり、考えを発表したりする時間を設ける。ものづくり活動は、事前に終了の時期と制作工程を示し、生徒が自ら探求心と見通しをもって制作を進められるようにする。完成後は、振り返りの時間も含め、成果を発表する場を設定する。学習活動にタブレットやPCなどを活用する場を積極的に取り入れ、探究のプロセスを深める。</p>
--	---	--	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
外国語 (英語・国際)	<p>語彙や文法、表現などを定着させ、正確に英文を話したり書いたりする能力と、まとまりのある英文を聞いたり読んだりする能力の育成を目指す。</p>	<p>全体の正答率を比較すると、全学年において、全国値は上回っているものの、市区町村値では下回っているものが多かった。特に、「思考・判断・表現」に関する問題の正答率が低い傾向が見られた。「知識・技能」に関しては、習熟度別少人数指導によるきめ細かな指導により、知識及び技能の定着が効果的に行われたと考えられる。一方で、「思考・判断・表現」に課題が見られることから、目的・場面・状況に合わせた言語活用場を設定し、複線型学習を行う中で、生徒が自ら課題を解決する力を養いたい。</p>	<p>生徒が英語を活用することができるように、授業の導入として短い会話練習を行い、目的や場面、状況などに応じた言語活動を設定する。また、簡単な語句や文を用いて表現する場を繰り返し設定する。既習事項を繰り返し活用したり振り返ったりといった指導の工夫を図り、少人数体制を生かしたきめ細かな指導を行うことで基礎の定着を目指す。4技能統合型の授業を計画・展開することで、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」の総合的な育成を目指す。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
徳道			

## 令和7年度 授業改善推進プラン

	<p>自他を尊重し共感し合い、責任感と自主性をもって行動できる力、そこからよりよい社会の実現へと見通せる力を育む。</p>	<p>生徒一人ひとりがしっかりと課題に向き合い、対話や議論などを行いながら自らの考えを深めていくことが課題である。道徳的判断力や道徳的心情、道徳的实践意欲、道徳的態度を内容項目に合わせて生徒の実態にあったねらいを設定したい。また、道徳的価値の意義及び大切さを理解させることも重要である。そこで、「考え 議論する道徳」を意識させた授業づくりを全教員が意識し授業を展開する必要がある。</p>	<p>生徒の実態にあった4つの道徳性を意識した授業づくりをしていく。また、年間指導計画に沿い、積極的にICTの活用や指導方法も振り返りながら、資質・能力の育成を進める。指導内容や指導手順の共通理解をもとに、生徒の変容や成長した側面を積極的に評価し、その成果を踏まえた具体的な指導内容の研究も行う。また、中心発問をより深めたり、生徒の多様な意見を出させるために補助発問にも力を入れたりしていく。さらに、指導体制も工夫したりし、人権尊重の精神を養わせていきたい。</p>
--	---	--	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
特別活動	<p>「社会の中で活用を生かす能力」、「社会に貢献する能力」、「人間関係を形成できる能力」の育成を目標とし、社会性を身につけて生きて行くために必要な能力を養う。</p>	<p>「自分のよいところがある」、「将来の夢や目標を持っている」と感じている生徒が少ない。学級活動や学校行事等、学校生活のあらゆる場面で、生徒の自己肯定感や自己有用感を高める指導を行う必要がある。</p>	<p>左記の能力の育成について学級活動や委員会活動、生徒会活動、学校行事など学校における様々な活動の中で取り組む。他者と協働して成果を分かち合うこと、周囲への寛容な態度と心情、公共のものを尊重する心情の育成などを、これからの活動を通して育むことに努める。</p>

	育成を目指す資質・能力	学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<p>情報収集・活用能力、コミュニケーション能力、自己表現力を高め、自ら考え主体的に行動できる、自立した生徒の育成を目指す。 タブレットを有効活用し、情報収集や課題解決、コミュニケーション、自己表現の各能力を向上させ、生徒一人ひとりの個性を伸ばす。</p>	<p>生徒一人ひとりが課題を深く理解し、主体的に取り組むことを基本とし、個々のレベルで意欲的に向き合うことが課題である。その上で、他者と情報を共有し、より高い視点で課題解決に取り組む。また個人でまとめたものを発表する機会も設け、個々の表現力向上を支援する。</p>	<p>日々の学校生活や、様々な学校行事に取り組む中で、課題探求型学習を通して情報収集・整理・発表を行い、自己表現能力を養う。コミュニケーションスキル向上のためのトレーニングも併せて行う。情報収集とタブレットを効果的に活用し、生徒の主体性を引き出す。特に発表の場では、タブレットを積極的に活用する機会を増やす。ポートフォリオ評価（活動記録等のファイリング）を実施し、活用資料を随時ファイリング（PCデータ）し、学校全体で共有・活用する。</p>